

2018年8月20日（月）滞在1日目

学部3年 M.Y

### Arrive in Ulsan / Welcome Dinner

蔚山大学の教授が2名、金海国際空港まで迎えに来て下さり、2つの車に分かれて蔚山まで向かった。

道路の標識や車のナンバー、ものすごく高いたくさんの建物や大量のマンション街などと、日本とは違った風景がいっぱいで後部座席にて興奮して、5日間の韓国生活が楽しみでドキドキだった。車の運転をしながら蔚山大学の教授が案内をして下さった。また、蔚山大学の学生が日本に来た際に、連絡先を交換していたため、無事に空港に着いたか確認の連絡をくれたり、「待っているよ」という動画を送ってくれたりした。蔚山につくとホテルに行く前に、そのまま Welcome Dinner となった。日本では見たことも食べたこともないような料理が出てきたり、たくさんのお惣菜が並べられており、ただ驚くばかりであった。また、最後にデザートがあるよと言われたため、杏仁のようなデザートが出てくると予想していたら、甘いスープのようなものが出てきて韓国ではこのようなデザートもあるのかと学んだ。



ディナー会場に行くと蔚山大学の学生や沢山の先生方が迎えて下さった。蔚山大学の学生とは久しぶりの再会で最初は緊張しながらもすぐに前回日本であった時のような距離感に戻り、学校の実習の話や将来の就職希望について話したりした。

ディナーが終わると、再び先生方の車でホテルまで向かった。ホテルのロビーには大きなクマのぬいぐるみがあったり、テレビ付きスポーツジムがあったりと楽しい要素がたくさん詰まっていた。また、ホテルから徒歩圏内には、化粧品やお土産を打っている店、チーズハットグの店やタスマージーの店など日本でも流行りのデザートが食べられる店が並んだ商店街のようなところがあり、韓国の学生が案内してくれた。「明日も朝早いから、早く帰ってゆっくり休んでね。」と気遣いをしてくれ、初日は早めにホテルに戻り翌日に向けて体を休めることとした。ホテルに帰り、すぐに体を休めようと思ったが、興奮でなかなか寝られず、ワイワイしてからいつの間にか眠りにつき翌朝を迎えた。

## Welcome ceremony in UOU / Campus tour &amp; Tea time / Public Health Care Center

この日のスケジュールとして、午前に Welcome ceremony が行われ、午後にキャンパスツアーと保健所見学が行われた。

Welcome ceremony では、蔚山大学の歴史や世界の健康問題について、英語での講話があった。ここで行われた話の中で、蔚山大学の創設者が現代グループの創設者と同一人物であることを知り、とても驚いた。また、講話のあとには、韓国の交流派遣学生が作成したプレゼンテーションの発表があった。日本で交流した際の体験や発見、学びをたくさんの写真を使用して、私たち日本人にもわかるように英語で発表してくれた。初めての韓国人との交流で、楽しんでもらえるようにもてなせたのか不安であったが、とても楽しかったと発表を聞いて、自分が交流派遣学生としてもてなすことが出来て良かったと感じることが出来た。

午前中の Welcome ceremony を終え、昼食をとるために、蔚山大学から歩いて行ける距離にある店に訪れた。ここでは、交流派遣学生だけでなく、Welcome ceremony に参加してくれた学生とも交流を行うことが出来た。どの学生も、とても親切で気さくに話しかけてくれて、ますます韓国人を好きになるきっかけとなった。また、ここで食べた料理が私にとってとても辛かったのだが、周りの蔚山大学の学生は「ちっとも辛くないよ」と言って、私たち日本人が辛そうに食べているのを楽しそうに見ていた。韓国人は辛いものが好きだというイメージはあったが、改めて実感した瞬間であった。



午後は全員で蔚山大学のキャンパスツアーを行った。歩いてのツアーだったが、キャンパス内がとても広く、歩き回るだけで疲れを感じるほどであった。ツアーで学内施設を見て回って、電子化が進んでいる印象を受けた。学内にある案内板もデジタルになっており、近代化が進んでいて凄いなと感じた。図書館は広く、中にはリクライニング式チェアが設備されており、そこで休憩する学生もいるらしく、その日も多くの学生が利用していた。

キャンパスツアーを終えた後、学内にあるカフェに入り休憩をとった。落ち着いた雰囲気のお洒落なカフェで、休憩するのに最適な場所だと感じた。そこでは、今日の夕飯の予定をみんなで話し合った。

休憩の後、私たちは韓国の保健所へと向かった。韓国の保健所には、歯科衛生の設備が整っており、母子健診や精神の部署など、様々な部署が存在していた。生活習慣病予防の取り組みを行なっている部署では、健康的な食事の食品サンプルが置いてあったり、血管の健康状態まで表示してくれる血圧計が置いてあったりした。また、メタボリックシンドロームの基準値が表記されている表記版があったのだが、その基準値が日本と韓国では異なっており、衝撃だった。このことから、生活習慣や食習慣によって、そこに住む人の体型は異なり、その地域に適した基準というものが存在してくるのだということを学ぶことが出来た。また、精神の部署では、「마음 토크 (Mind Talk Talk)」と表記されている靴を配り、悩みを抱えている人々に、一人で悩まずに誰かに話してみようと呼びかけを行なっているという具体的な活動が見られた。日常的に使いやすいもので啓発を呼びかけるという点では、日本でもポケットティッシュを使用しての啓発がよく見られる。日常的に使えるものという視点は似ているが、インパクトや経済面で見た時の配れる人数に違いがあると感じた。



夜は、蔚山大学の学生がよく行くというサムギョプサルの店に連れて行ってもらった。そこでは、韓国の食文化について少し触れることが出来た。韓国では、料理を残すことは相手に失礼ではないらしい。日本では、もったいない精神から、出されたものは残さず食べるのが礼儀であるが、韓国ではそういうのではないと言う。些細なことではあるが、考え方の違いというものを感じた。

この日は、日本との差異や相似を医療的な面や日常的な面で発見することが出来た。そもそも文化が違うのだから、考え方や生活習慣が違ってくるのは当たり前で、相手の文化を理解することで始まる関係があることを学んだ。国際的に医療を行う上でも、文化理解は重要であり、実際に現地に行き文化に触れることで、より深い理解ができるのだと思った。

## Ulsan University Hospital / Hyundai Heavy Industries / Daewangam Park

朝、ホテルのロビーに集合し蔚山大学病院へと向かった。蔚山大学病院では、韓国での医療の仕組みや蔚山大学病院内の見学をした。蔚山大学の学生が日本語で通訳をしてくれ話している内容がよく理解でき大きな学びを得ることができた。病院の建物がとても立派で、また韓国での医療の仕組みや病院内で行われている感染症対策についてなどお話を聞くことができとても勉強になった。

病院を後にして向かったのは、ヒュンダイの重工業博物館である。そこには、ヒュンダイ重工業の創設者についての説明や、ヒュンダイ重工業の歴史など詳しく説明がされており、韓国の重工業の歴史を感じることができた。韓国におけるヒュンダイの存在感を感じることができ、どれほど偉大で偉業を成し遂げたのかを知ることができ、医療とはまた異なる部分で韓国を知ることができたと思う。

その後、昼食のためにショッピングモールの中にある中華料理屋さんへ向かった。人気店のようでたくさんのお客さんがいた。その中でも日本の学生と教員のために予約されており、またこのような立派なおもてなしをして頂けて感激した。韓国の学生は、各自でご飯を食べるようだったが、お店まで案内してくれて、感謝でいっぱいだった。昼食では、韓国で有名な麺のジャージャー麺を注文する人がいたり、それぞれ好みに合わせてご飯を頼みランチを楽しんだりしていた。その後、韓国の学生と合流し韓国の学生がよく知っているおしゃれなカフェで、日本のかき氷と同義のソルビンというスイーツをみんなで分け合って食べ、お互いのことを話したりした。将来は日本語を上手に話せるようになって、通訳もしてみたいと語る韓国の学生もおり、刺激を受けた。



そして、蔚山の中心部から近くにある観光名所、大王岩公園(Daewangam Park)へと向かった。公園に到着し散策していると、駐車場付近に可愛い雑貨屋さんがたくさんあり、自分好みのお店に入ると、髪飾りやアクセサリなどを試し付けして楽しんだ。一通り、雑貨屋さん巡りを楽しんだ後、海岸線へと歩いて向かった。海岸線への道中には私たち以外にも観光客の方が多くいらっしや、蔚山の観光名所に来たと再認識できた。海岸線に到着すると、海の近くまで行くことができ、また岩陰からの眺めがとてもよく、みんなで写真を撮り合い観光を満喫した。

ディナーの時間には、カジュアルレストランに向かったが、そこは韓国の中でも滅多に食べることができないと言われるほど有名なレストランで、バイキング形式でご飯を頂いた。特にお肉の種類が豊富でとても美味しく、みんな満足した様子でお腹いっぱいご飯を食べ楽しい時間を過ごしていた。病院やヒュンダイ博物館で通訳をしてくれた韓国の学生も一緒にディナーでご飯を食べ、日本に留学に来るという話を聞いて一同が湧いた。しばらくすると、一昨年まで本学にいらしたチェ先生がお見えになり挨拶をされ、私たち日本人学生のことを覚えてくださっていて感激した。また日本人学生にプレゼントも下さり、頂いたエコバッグは今も大切に保管してある。ホテルに帰着後、次の日に韓国の学生へ渡す色紙をみんなで作って書き、眠りについた。

2018年8月23日(木) 滞在4日目 学部3年 H.S  
8月24日(金) 滞在5日目 学部3年 S.A

**Haedong Yonggungsa in Busan / Centerm / Farewell dinner  
Depart Gimhae International Airport / arrive Fukuoka International Airport**

午前釜山にある海東龍宮寺(Haedong Yonggungsa)に訪問した。海岸に限りなく近い場所に建てられていた。お寺の内部ではお祈りをしている住人がおり、私たち学生も真似をしてお祈りを行った。日本ではなかなか経験できない体験することができてとても嬉しかった。ほかにも、金運と子孫繁栄の効果がある丸々と肥えた黄金豚をなでたり、病気を治す効果がある神秘的な薬水を触ったりして寺全体を見て回った。

午後は釜山にある新世界(Shinsegae)というデパートに行った。このデパートは“世界の広さの百貨店”としてギネス記録に認定されている。それほど大規模な施設は日本のどこにもないだろう。この規模の施設が経営を継続できるのは、韓国の方々がたくさん買い物をするためであるのか、または私たちのような観光客を対象に建てられた施設であるためなのか、疑問に思った。私はこの施設を利用して、釜山はとても都会で経済が豊かであるという印象を持った。学生のみで昼食をとることになり、グループに分かれて食べることになった。韓国の学生は私たちとは別の店舗で食べる予定であったが、私たちが入った店舗の店員に話をつけてくれた。韓国語を話すことができず、店員と意思疎通ができるか不安だったため、とても助かった。そのあとの買い物では、韓国の学生は韓国で流行っているものをたくさん教えてくれた。「〇〇(私の名前)がこの前言っていた商品がここにあるよ。」とわざわざ声をかけてくれた時は、私が何気なく言った言葉を覚えてくれていたのだなと驚き、同時にとても嬉しくもあった。

夕食はFarewell dinnerとして、韓国の伝統的な料理をいただいた。すこし辛いものもあったが、どの料理もとても美味しかった。最後に私たちから英語で感謝の気持ちを伝える時間をいただいた。事前に練習していましたが、自分の英語が伝わるか、不安であった。韓国の学生らに何とか感謝を伝えることができたようで嬉しかった。最後に、この日が誕生日だった日本の学生に、韓国の学生がサプライズでケーキを用意してくれていた。誕生日の学生は驚きとても喜んでいて、あの日のおいしさは一生忘れられないだろう。

韓国の学生は、強い雨の中、私たちをホテルまで送ってくれた。この夜が学生同士で会える最後の夜であった。互いに名残惜しさを感じ、感謝の気持ちを伝え合った。別れがつらく涙を流す学生もいた。私たちが交流したのはたった10日間でしたが、その中身はとても濃いものだった。この夏は私たちにとってかけがえのない思い出になった。

今回の交流を通して、韓国の医療・保健事情や文化の違いを学ぶことができた。また、自身の英語力(話す・聞く)の未熟さを同時に実感した。韓国の学生の英語力が優れていたため、意思疎通ができていたと言っても過言ではない。しかし、そんな中で言葉だけがコミュニケーションではないことも感じた。言葉をあまり発さなくても、ジェスチャーを使ってみんなと一緒に笑いあった瞬間が多々あったと思う。言葉だけでなく通じ合うことができることを経験することができた、いい機会であった。この経験を忘れずに、自身のコミュニケーション能力をさらに高めていきたいと思う。

最終日はホテルへ蔚山大学の先生が来てくださり、学生への寄せ書きを渡してもらうようお願いすることができた。その後は空港へ移動、無事全員で帰国した。

今回の交流で、ただ単に韓国と日本の文化の違いを感じただけでなく、同じ看護師を目指す学生として大いに刺激を受けた。お互いあまり得意でない英語を使って会話しながらも、ジェスチャーなどで工夫しながら楽しくコミュニケーションが取れたのは本当にいい思い出である。もちろん、英語能力を高めてスムーズに会話できるようになりたいという意欲にも繋がった。今回の交流で築いた関係をこれだけで終わらせるのではなく、今後も長く付き合えるものにしたい。